

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473500690	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社メディカルケアシステム		
事業所名	グループホームちいさな手横浜さかえ		
所在地	(244-0841) 横浜市長区長沼町478-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの周りは緑に囲まれ、外観はお客様がお見えになっても違和感なくお家にいらしたような落ち着いた雰囲気建物になっております。冬の寒いシーズンは床のフローリングは床暖房になっておりますので、足元が暖かく空気もとてもきれいです。又、陰圧器を設置しており、24時間空気清浄と、感染症になった時など、居室に設置しウイルスやホコリ、花粉、ダニ等なく無菌状態にすることが出来ます。お庭は緑が多く1年を通して四季を感じて頂いて居ます。夏になりますと、ミニ菜園を行い夏野菜のキュウリ、トマト、なすの苗を植え収穫と入居者様に野菜をとって頂き新鮮な野菜を召し上がって頂いております。時には草むしりもして頂いております。医療連携はとても充実しております、24時間対応入居者様が急変症状等クリニック、ナースにて行っております、又、看取りも行っております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月29日	評価機関 評価決定日	令和5年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJRまたは横浜市営地下鉄「戸塚」駅から江ノ電バスに乗り「長沼」バス停で下車し、歩いて5分程の静かな住宅地の一角にあります。建物は緩やかな傾斜地にあり、日当たりが良く、緑に囲まれた、恵まれた環境です。

<優れている点>

法人の介護理念は、たとえ「ちいさな手」でも手と手を取り合えば、愛や助け合いの心が生まれ、入居者やスタッフの一人ひとりが幸せになれるような、豊かな生活の実現を掲げており、これを受けて今年の事業所の具体的な取り組みを、接遇マナーと5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の強化とし「マスク顔でも笑顔と分かる挨拶を」「何年たってもきれいなホーム」を目指し、日々利用者と共に過ごしています。ベトナムの技能実習生を職員として多数受け入れており、日本人のスタッフと同質の介護をできるように育成しています。

<工夫点>

法人の行動指針を職員がいつでも振り返り、そして実践に役立てるためにカードにして携帯しています。複数の同一法人のグループホームと研修や人的交流を行い施設の運営に役立っています。月1回行うフロアミーティングを、施設の最も重要な会議に位置づけ、管理者とフロアリーダーをはじめ可能な限りシフトの変更も行いながら職員全員が出席し、時間をかけて、集中して、ディスカッションやモニタリングを行い、サービスの向上を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

がととも	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームちいさな手横浜さかえ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	クレトカードを朝唱和いたしております。事業所だけの目標を毎年決定し周知しております。	法人の行動指針は常に振り返れるようにカードにしています。今年の事業所独自の取り組みとして、挨拶や言葉づかいなどの接遇マナーと5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の強化とし「マスク顔でも笑顔と分かる挨拶を」「何年たってもきれいなホーム」としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナで集まりが行われていません。組合長と役員の方々と時折お話をさせて頂き、自治会の年間行事に参加致したおところですが、活動が全くないそうです。	自治会に加入しています。コロナ禍のため、地域の行事やイベントの開催は中止となっています。このような状況の下、正月の挨拶や、時折来訪する自治会の役員との情報交換、近隣住民と草むしりなどでの声掛けなど、地域との交流を絶やさぬよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	移動屋さんが来て下さるので、入居者のかたもぱんを選んで下さっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで集まりが行われていません。組合長と役員の方々と時折お話をさせて頂き、自治会の年間行事に参加致したおところですが、活動が全くないそうです。	コロナ禍前は、家主・町内会長・民生委員・地域ケアプラザ職員・事業所の関係者などが出席し2ヶ月毎に開催していましたが、現在は、事務局が作成する「運営推進会議実施報告書」を行政はじめ関係先に配付する書面開催に止まっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	書類や、消防署の方とお話をし、避難訓練の話させて頂いております。	コロナ禍では、行政との対面でのやり取りは難しい状況です。介護認定更新や事故報告また研修会の参加などは電話やメールまたリモートでの対応となっています。なお消防所とは避難訓練のやり方について年1回相談をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	他の事業所と会議をし、意見交換を行っております。	「身体拘束排除マニュアル」を整備しています。「虐待防止身体拘束委員会」を全体会議の年間スケジュールに組み込んでいます。また同一法人の二つの事業所と合同で委員会を開催し情報交換をしています。なお身体拘束しないケアとそれに伴うリスクについては家族に説明し共有しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回会議や書面を通して、言葉づかい等、日頃より意識している。	身体的、心理的また介護放棄など様々なケースについて集合研修やOJTを通じて理解を進めています。管理者は職員の言葉使いに最も注意を払い兆候を事前にチェックするよう努めています。職員の年一回アンケート方式でのストレスチェックを実施しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に後の方がいらっしゃいますので、とても勉強になっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず、書面と口頭で説明を行っております。都度、ご質問にお答え致します。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今回はコロナで面会が出来ず、ご意見を頂くことが、いつもより多く。ケアマネのケアプランに直接ご家族様をご記入下さる時もございますので、いかさせて頂いて居ます。	コロナ禍により、家族との面会は庭からの窓越しですが再開しています。毎月、居室担当者が自筆で書いた「月たより」や写真中心の「ちいさな手横浜さかえ新聞」を請求書に同封し近況を伝えています。家族からの要望などは面会時や電話などで伺うようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	携帯電話や、何かあればいつでも相談できるように、ホーム長が心掛けております。会議の際には意見交換をしています。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションや声掛けを大切にしています。また日々の申し送りや業務日誌、毎月のフロアーミーティングなどを通じて職員の意見や提案を受け入れています。	職員の個々の状況を直接把握するため、職員と管理者との一対一での定期的な個人面談の実施が期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	いつでも、相談に乗れるように心がけています。各階にリーダーもおりますので、いつでも相談に応じる様になっております。	就業規則は、いつ誰でも見ることが出来ます。定期健康診断は、全職員対象に年1回、夜勤従事者は年2回実施しています。ロッカー室と更衣室は整っています。有給休暇の取得も推奨しています。複数のベトナム人の技能実習生の待遇面での対応も取れています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人にてリモート会議、月1管理者会議事業所内で会議、研修を行っております。	スキルアップはフロアリーダーやベテラン職員によるOJTを中心に行っています。同一法人の他事業所との交流もあります。全職員、法人主催の行動指針を理解するための研修の受講が義務付けられています。介護職員初任者研修受講代を会社が負担しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所が近隣にございますので、電話、メール、訪問にて会議参加したり、研修を行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族様と電話対応をしたり、ホームで問題があれば、迅速にご相談させていただいております。色々な角度からスタッフと意見を出し合いながら、穏やかにお過ごしいただけますよう、日々、試行錯誤しながら進めさせていただきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	1番最初にお見えになって、問題を抱えているご家族様のお話を伺い、信頼性をそこで持っていただけるよう傾聴には力を入れております。グループホームとは、と言う所からお話しさせて頂き、信頼性を持って頂ける様に心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	毎日の生活の中で、リハビリ、歯科、美容院等、必要に応じた、サービスを出来る範囲でご相談させて頂きながら、支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	女性の方が多いので、毎日の生活に密着した、洗濯、たたみ、食器拭き床拭き、等無理なく一緒にしていただくことで、一緒に生活しているという、関係性が出来てきていると思われます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は1人1名担当者がいて、月1回のモニタリングをする事で、ご家族様にも職員からコメントをかかせて頂いたり、お電話させて頂いたりしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は窓越し面会を実施。その他電話やお手紙のやり取りをして頂いております。	コロナ禍により、友人や知人の来訪は難しい状況となっておりますが、編み物や、ピアノの伴奏で歌ってみたり、ぬり絵をするなど入居前に馴染んでいた趣味を継続できるよう支援しています。その人らしく毎日が送れるよう寄り添うことを心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	いつも、日中帯ほとんどの方がフロアーにいられ、皆さんでお話ししたり、体操、歌を入居者様自身から行っていることが多いです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話等で連絡を取り合い状況を把握しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々入居者様と話をしたりコミュニケーションをとり思いをくみ取るようにしております。スタッフ同士で情報共有しております。	利用者との関わりを多く持ち、発する言葉、行動や表情などから思いを汲み取っています。利用者同士の会話の中からも意向を把握しています。家族や関係者からも情報を得るようにしています。得られた情報はミーティングで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様との会話の中で生活歴のリサーチを行い、わからないときはご家族様にも確認を生活環境等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様との会話からの確認介助を行いADL等を確認、様子観察を実施、スタッフ間で情報を共有し把握しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	上席、ご家族様、関係職員でミーティング等で話し合いをし、職員にて情報確認しながら介護計画の作成に努めているがケアマネージャー経験が浅いため、少しずつご家族様に介入し、計画書作成に努めております。	利用者、家族の意向を確認し、入居時に暫定ケアプランを作成しています。1ヶ月後に職員と家族、医療関係者と話し合い本プランを作成しています。長期を6ヶ月、短期を3ヶ月とし、状態に変化があった場合はミーティングを行いケアの内容を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の状況によってはいつも以上に細かく記録をとり全員で共有していくことは日々実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ホームフロアーにて体操、トイレ誘導にて歩行をし、下肢筋力低下の確認をしている中、リハビリを兼ねたマッサージや、歯科、理美容、又訪問ドクター看護師、などご家族様に相談をしながら、行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会への参加や地域包括との情報交換等、実施しております。がコロナ渦の中入居者様には反映されておられません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問クリニック、訪問看護にて月2回訪問診療と24時間対応を行っております。緊急にも訪問クリニックにて行っております。ご家族様には体調の変化やお薬変更など看護師より、直接ご家族様に電話をしご理解を頂きながら、支援を行っております。	利用者、家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医として月に2回の訪問診療を受けています。医療連携看護師が週に1回位健康チェックを行い医師と情報を共有しています。定期的な専門医の受診は家族が同行し、緊急時は職員が同行して情報共有をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に看護師に些細なことで情報をつたえ、対応しております。職員も不安がなく介護を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、必ず看護サマリー、診療情報提供書のやり取りは必ず行っております。その他、病院との連携にはスムーズに電話にて情報を提供しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りなど契約時にお話しをし説明しております。地域関係は、特にありませんが近隣の栄共済病院が指定病院になっていますので救急搬送の際におねがいしています。	契約時に「看取りの指針」と急変時の「延命に関する事前指定書」で説明をしています。重度化した場合や看取りをする時は、その都度、医師が家族に説明し事業所と連携して方針の検討と共有を行い、支援をする体制ができています。看取りの経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の各職員には対応が出来るよう、ナースに電話をし応急手当が迅速かつ安心して行われています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回火災、水害等の訓練を行っております。職員と入居者様と一緒にいつも行っております。疑問が生じた時は栄消防署にお伺いをして聞きするようにしています。	年に2回利用者と一緒に火災、水害の避難訓練をしています。避難の様子を写真入りで記録しています。「緊急時の個人別情報リスト」を作成しています。近隣との関係が良く災害時は利用者の見守りなどの協力が得られます。災害備蓄品はリスト化しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけには注意を払っております。	接遇の研修をしています。行動指針、人格や個人の尊厳等を記載したクレドカードを全職員が携帯しています。利用者を思いやる言葉かけをしています。「褒めことば」と「ありがとう」などで利用者が不快な気持ちを持つことなく過ごせるように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全てがきぼうどうりとはいかないですがなるべく、ご本人のニーズに合わせてくよう、心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てその様にしたいですが、実際には誘導にてお過ごしいただくことが多いです、ただ、ペースはその方お1人おひとりのペースに合わせて行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装はワンパターンにならない様に注意を払っております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を包丁で切ったり、食器を洗う、拭く等無理なく体調に合わせてしております。	食材とメニューは業者に委託しています。利用者は調理、食器洗いなど体調に合わせて参加しています。苗から育てたトマトやキュウリを利用者が切り食卓を飾ります。おやつに季節の果物を提供しています。移動パン屋で好きなパンを選んで購入しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者から取り寄せた栄養バランスの考えた食事を3食召し上がって頂いております。水分摂取量も、3食+おやつ等1日摂取量は記録に必ず残し体調管理の重要性を職員全員が感じ取っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯ブラシ、うがいを行っております。介助が必要な方など、必ず横についておこなっております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレで排泄を行っていただくように声掛け誘導や介助にて行っております。特に排便パターンは把握して介助を行っております。	トイレでの排泄を基本と考えています。立位が困難でも2人介助で誘導しています。ズボンの着脱など出来ることはしてもらっています。パターンや仕草、動作を見逃さないように声掛け誘導をしています。失敗しないよう夜間も2～3時間ごとに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取やお食事等を把握し排便表をつけることで、下剤や体操など行っております。1人おひとりペースが違いますので、何日も便秘のかたは、ナースにて指示をもらい、解消に向けてまいにち、気をつけながら、管理を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は午前中を主に行っております。タイミングは、排便の後の方など、清潔保持に気をつけながら行っております。拒否があっても優しく誘導をし、入浴後笑顔で、サッパリなさっております。	週に2回午前中が基本ですが、希望や体調により変更することもあります。湯は利用者ごとに張り替えています。好みのシャンプー、ボディソープを使う利用者もいます。職員と1対1でゆったりとした入浴を楽しみにしている利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の居室まで誘導、入床されたり。フローにて他の入居者の方とお話しされてから、休息をとられる方などおりますので、気持ち良くベッドに入られる様にこころがけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員にて、説明書や、誤薬をしない様に入念なチェックを何回もしております、服薬前後の体調でバイタルを計るかたもいますので、バイタルにも気をつけて服薬を服用。服用後		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	モップで床拭き、洗濯たたみ等を手伝って頂いております。毎日に生活の中に取り入れています。女性の方など、以前生活をしていた事の延長とおもわれますので、無理なく行って頂いております。体操、歌等毎日とても楽しそうにされています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ということもあり、通院以外は、外出は控えさせて頂いております。夏は庭にて家庭菜園をしておりますので、一緒に草むしりから、野菜の収穫まで一緒に行っております。	コロナ禍の中でも小さな公園や散歩で近隣の人々と挨拶を交わしています。ウッドデッキで外気浴をしたり、車いすの利用者も日当たりの良い場所で日光浴をしています。職員と共に家庭菜園の手入れをしたり野菜を苗から育て収穫を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、お金の所持はお断りをさせて頂いておりますが、お金の依存がある方には、ご家族様と相談しながら所持していただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様ご本人から電話をすることはございませんが、ご家族様、お知り合いの方よりお電話を頂く事が多くあり、ご本人と変わりお話しされる事は良くされております。てがみ、葉書も来ております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わえるような壁紙、飾り付け、生のお花など季節感を感じて頂いております。	陽当たりの良い共用部分にはいつも利用者がいます。職員と利用者で作成した季節感のある壁画を掲示しています。季節の生花が随所にみられ生活に豊かさを感じることができるよう工夫しています。コロナ禍の今、換気、掃除に力を入れ消毒も徹底しています。利用者もモップ掛けなどの手伝いをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事をするフロアー以外ソファー、和室をご用意し思い思いに過ごして頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時に、ご家族様に使い慣れた物を持って来て頂き、写真などを飾る方がとても多くおります。	エアコン、ベッド、寝具が備え付けです。写真など今まで大切にしてきた思い出のある使い慣れた品を揃えて自分の部屋と思えるようにしています。床のフローリングは床暖房になっているので、いつ自室に戻っても快適に過ごすことができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーに配慮し、歩ける方は自由にリビングや廊下を移動できるように支援を行っております。		

事業所名	グループホームちいさな手横浜さかえ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが レ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある レ 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている レ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が レ 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	クレトカードを朝唱和いたしております。事業所だけの目標を毎年決定し周知しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナで集まりが行われていません。組合長と役員の方々と時折お話をさせて頂き、自治会の年間行事に参加致したおところですが、活動が全くないそうです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	移動屋さんが来て下さるので、入居者のかたもばんを選んで下さっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで集まりが行われていません。組合長と役員の方々と時折お話をさせて頂き、自治会の年間行事に参加致したおところですが、活動が全くないそうです。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	書類や、消防署の方とお話をし、避難訓練の話させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	他の事業所と会議をし、意見交換を行っております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回会議や書面を通して、言葉づかい等、日頃より意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に後の方がいらっしゃいますので、とても勉強になっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず、書面と口頭で説明を行っております。都度、ご質問にお答え致します。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今回はコロナで面会が出来ず、ご意見を頂くことが、いつもより多く。ケアマネのケアプランに直接ご家族様がご記入下さる時もございますので、いかさせて頂いて居ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	携帯電話や、何かあればいつでも相談できるように、ホーム長が心掛けております。会議の際には意見交換をしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	いつでも、相談に乗れるように心がけています。各階にリーダーもおりますので、いつでも相談に応じる様になっております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人にてリモート会議、月1管理者会議事業所内で会議、研修を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所が近隣にありますので、電話、メール、訪問にて会議参加したり、研修を行っております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族様と電話対応をしたり、ホームで問題があれば、迅速にご相談させていただいております。色々な角度からスタッフと意見を出し合いながら、穏やかに過ごしいただけますよう、日々、試行錯誤しながら進めさせていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	1番最初にお見えになって、問題を抱えているご家族様のお話を伺い、信頼性をそこで持っていただけるよう傾聴には力を入れております。グループホームとは、と言う所からお話しさせて頂き、信頼性を持って頂ける様に心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	毎日の生活の中で、リハビリ、歯科、美容院等、必要に応じた、サービスを出来る範囲でご相談させて頂きながら、支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	女性の方が多いので、毎日の生活に密着した、洗濯、たたみ、食器拭き床拭き、等無理なく一緒にしていただくことで、一緒に生活しているという、関係性が出来てきていると思われます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は1人1名担当者がいて、月1回のモニタリングをする事で、ご家族様にも職員からコメントをかかせて頂いたり、お電話させて頂いたりしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は窓越し面会を実施。その他電話やお手紙のやり取りをして頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	いつも、日中帯ほとんどの方がフロアーにいられ、皆さんでお話ししたり、体操、歌を入居者様自身から行っていることが多いです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話等で連絡を取り合い状況を把握しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々入居者様と話をしたりコミュニケーションをとり思いをくみ取るようにしております。スタッフ同士で情報共有しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様との会話の中で生活歴のリサーチを行い、わからないときはご家族様にも確認を生活環境等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様との会話からの確認介助を行いADL等を確認、様子観察を実施、スタッフ間で情報を共有し把握しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	上席、ご家族様、関係職員でミーティング等で話し合いをし、職員にて情報確認しながら介護計画の作成に努めているがケアマネージャー経験が浅いため、少しずつご家族様に介入し、計画書作成に努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の状況によってはいつも以上に細かく記録をとり全員で共有していくことは日々実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ホームフロアーにて体操、トイレ誘導にて歩行をし、下肢筋力低下の確認をしている中、リハビリを兼ねたマッサージや、歯科、理美容、又訪問ドクター看護師、などご家族様に相談をしながら、行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会への参加や地域包括との情報交換等、実施しております。がコロナ渦の中入居者様には反映されておられません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問クリニック、訪問看護にて月2回訪問診療と24時間対応を行っております。緊急にも訪問クリニックにて行っております。ご家族様には体調の変化やお薬変更など看護師より、直接ご家族様に電話をしご理解を頂きながら、支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に看護師に些細なことで情報をつたえ、対応しております。職員も不安がなく介護を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、必ず看護サマリー、診療情報提供書のやり取りは必ず行っております。その他、病院との連携にはスムーズに電話にて情報を提供しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りなど契約時にお話しをし説明しております。地域関係は、特にありませんが近隣の栄共済病院が指定病院になっていますので救急搬送の際におねがいしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の各職員には対応が出来るよう、ナースに電話をし応急手当が迅速かつ安心して行われています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回火災、水害等の訓練を行っております。職員と入居者様と一緒にいつも行っております。疑問が生じた時は栄消防署にお伺いをしてお聞きするようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけには注意を払っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全てがきぼうどうりとはいかないですがなるべく、ご本人のニーズに合わせてくよう、心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てその様にしたいですが、実際には誘導にてお過ごしいただくことが多いです、ただ、ペースはその方お1人おひとりのペースに合わせて行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装はワンパターンにならない様に注意を払っております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を包丁で切ったり、食器を洗う、拭く等無理なく体調に合わせてしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者から取り寄せた栄養バランスの考えた食事を3食召し上がって頂いております。水分摂取量も、3食+おやつ等1日摂取量は記録に必ず残し体調管理の重要性を職員全員が感じ取っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯ブラシ、うがいを行っております。介助が必要な方など、必ず横についておこなっております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレで排泄を行っていただくように声掛け誘導や介助にて行っております。特に排便パターンは把握して介助を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取やお食事等を把握し排便表をつけることで、下剤や体操など行っております。1人おひとりペースが違いますので、何日も便秘のかたは、ナースにて指示をもらい、解消に向けてまいにち、気をつけながら、管理を行っております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は午前中を主に行っております。タイミングは、排便の後の方など、清潔保持に気をつけながら行っております。拒否があっても優しく誘導をし、入浴後笑顔で、サッパリなさっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の居室まで誘導、入床されたり。フロアにて他の入居者の方とお話しされてから、休息をとられる方などおりますので、気持ち良くベッドに入られる様にこころがけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員にて、説明書や、誤薬をしない様に入念なチェックを何回もしております、服薬前後の体調でバイタルを計るかたもいますので、バイタルにも気をつけて服薬を服用。服用後		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	モップで床拭き、洗濯たたみ等を手伝って頂いております。毎日に生活の中に取り入れています。女性の方など、以前生活をしていた事の延長とおもわれますので、無理なく行って頂いております。体操、歌等毎日とても楽しそうにされています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過ということもあり、通院以外は、外出は控えさせて頂いております。夏は庭にて家庭菜園をしておりますので、一緒に草むしりから、野菜の収穫まで一緒に行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、お金の所持はお断りをさせて頂いておりますが、お金の依存がある方には、ご家族様と相談しながら所持していただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様ご本人から電話をすることはございませんが、ご家族様、お知り合いの方よりお電話を頂く事が多くあり、ご本人と変わりお話しされる事は良くされております。てがみ、葉書も来ております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を味わえるような壁紙、飾り付け、生のお花など季節感を感じて頂いております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事をするフロアー以外ソファ、和室をご用意し思い思いに過ごして頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時に、ご家族様に使い慣れた物を持って来て頂き、写真などを飾る方がとても多くおります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーに配慮し、歩ける方は自由にリビングや廊下を移動できるように支援を行っております。		

2022年度

事業所名 グループホームちいさな手横浜さかえ
 作成日： 2023 年 1 月 18 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に看護師に些細なことでも情報を伝え対応していきます。	特にコロナ感染のマニュアルを作成し、文章だけでなく、一目で見てわかるように絵を書くことで、迅速に対応していく。	3ヶ月
2	35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回必ず行っております。職員と入居者様と一緒にしております。	年2回の中でも職員が不安がある中でいかに充実した、訓練を行う。エレベーターが使えなくなった際など訓練を色々な方法で行うことで、疑問点をあげながら次に行う際にはそれを行うようにしていく。特に夜勤者の不安を少しでも、なくなるよう取り組んでいく。	6ヶ月
3	11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	携帯電話や、何かあればいつでも相談できるよう、ホーム長が心掛けております。会議の際には意見交換をしております。	アンケート等々は、年に1、2回必ず行っております。そのアンケートを基に個人面談を実施していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月